

イノシシの効果的な被害対策

イノシシは、隠岐島を除くほぼ全域に生息しています。水稻、サツマイモ、ダイズなどへの食害による被害は約 7,100 万円にも上り、鳥獣被害の 80% を占めます。このように被害が多いのは、高い繁殖力をもつために毎年 1 万頭以上を捕獲しても生息数が減らないことや耕作放棄地、竹林の増加による生息適地の増加などの影響が考えられます。

田畑への侵入を防ぐには、侵入防止柵の設置が最も有効です。ワイヤーメッシュ柵は、15cm のマス目のものでは、子（ウリ坊）が侵入するので、10cm のものを使用します。注意したいのは、ワイヤーメッシュの横棒をくわえて、引っ張って壊すことがあるので、必ず縦棒が上にある面をイノシシ側にして設置します。また、この柵の上部 30cm を外側に折り返すことも有効です。電気柵は、地面から 20cm の間隔で電線を 2~3 段張って、電圧は 4,000 ボルト以上を保ちます。設置後は、定期的な草刈りや電圧チェックなどの維持管理が不可欠です。これらの対策を集落ぐるみで行うことによって、高い効果が得られます。

さらに、イノシシの嫌がる環境を作ることも重要です。耕作放棄地や田畑周辺の草刈りをして、開けた環境（緩衝帯）を作ることや、誘引餌となる放棄作物を除去するなどのイノシシを近づけない工夫も必要です。なお、緩衝帯の維持には、牛や山羊などの放牧が有効です。（島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科 小宮将大）



上部を折り返したワイヤーメッシュ柵